



第4章

未来に向けて

KONAMI 小治政

これまでの振り返りと来シーズンの展望

25年度の振り返りと今後の展望

エスパルスは、「スポーツの力で、持続可能な社会・経済・環境を未来に繋げる」という想いのもと、ホームタウンを中心とする地域の皆さまとともに多様な活動を進めてきました。

2025年度においても、社会・経済テーマにおける様々な活動をはじめ、環境においてはホームタウンである静岡市と連携した環境教育プログラムや、パートナー企業の協力によるリサイクル活動など、これまで行ってきた取り組みを、一つひとつ着実に進めるとともに、クラブ関連全施設にて再生可能エネルギーの活用拡大といった新たな取り組みにも挑戦いたしました。また、気候変動をクラブが重点的に取り組むべき社会課題として捉え、今回のインパクトレポート発行を機に、ゼロカーボン達成に向けたロードマップも作成いたしました。

来シーズンは、従来から継続して行う取り組みについては、質の向上を図るとともに、時代変化に応じた社会課題解決に取り組んでいきたいと考えています。そして、ホームタウンからファミリータウンへ活動を拡げ、目標とするエスパルスファミリー数150万人以上の達成を目指してまいります。

今後も、サッカーの力と地域の想いを結びながら「夢・感動・誇り」を地域に届け、未来に向けた価値をエスパルスファミリーの皆さまと共に創り続けます。



未来へのメッセージ

子どもたちの憧れの存在に

日常の“当たり前”がSDGsに

息子と一緒に自宅でテレビを見ている時に、SDGsというワードを耳にする機会が増えました。散歩が好きなので、近くのスーパーに行く時に、子どもたちと一緒に歩いていくようにしていますが、あくまで趣味の範疇です。食べ残しに関しては、小さいころから親に厳しく言われてきました。自分の子どもたちにも提供された食事はできる限り食べさせますし、それが当たり前になってきていると感じています。マナーや体づくりの面などを考えての行動かもしれませんが、それが結果的に環境面にもつながるのであれば、続けていきたいし、できる限りは実践してほしいと思いますね。

僕のように、日常の中で当たり前とやってきたことが、振り返った時にSDGsにつながっていたことがある人は少なくないのではないのでしょうか。日常の中に関連する行動を取り入れることが、最も簡単ですし、大事なことだと思います。

ピッチで感じた変化から、気候アクションへ

シェアサイクルPULCLEをよく使っています。環境問題を意識してはじめたわけではないのですが、車を使う頻度を減らすことが、結果として二酸化炭素の排出量を減らすことにつながっていたのであれば、気候アクションの一つの行動です。

また、僕らサッカー選手は、夏の暑さをピッチ上で誰よりも体感しています。僕もキャリアを重ねる中で、年々体感温度が上昇していると感じることが多いです。10年前とは訳が違いますよね。同時に、子どもを夏に遊ばせる時も、場所を考えてしまいます。暑すぎて屋外プールが開かなかったり、外で遊ぶことができなくなったりするのは、僕らの時代では考えられなかったこと。行動範囲が狭まってしまうのはかわいそうなので、僕自身もできることをしっかりやろうと思います。

夢や目標を持つことで、人は強くなれる

今の僕がプロサッカー選手として示すことのできる価値は、やはり夢や目標を持つことの大切さです。目指すべきところがあると、人は強くなれる。たとえ失敗したとしても、なんで失敗したのか、うまくできなかったのかを考えた上で、もう1度チャレンジすることが、次につながると、僕は身をもって実感してきました。僕は結果までの過程が大事だと思っているので、自分の取り組みに目を向けることで、広い意味で人間的にも成長できますし、失敗しようとも次につながるとしています。



清水エスパルス 選手

北川 航也

PROFILE プロフィール

1996年7月26日生まれ。

29歳。静岡県静岡市出身。

エスパルスジュニアユース、ユースを経て、2015年にトップチーム昇格。2018年10月には日本代表初招集・初出場を果たし、翌年1月にはAFCアジアカップにも出場。2019年7月にはオーストリアのSKラピッド・ウィーンへ完全移籍。

2022年6月にエスパルスへ復帰し、2024年からの2年間はキャプテンを経験。今季より背番号を「49」に変更した。

未来へのメッセージ



PROFILE プロフィール

1974年8月31日生まれ。

51歳。静岡県清水市（現：静岡市）出身。

東海大学第一高校（現：東海大学附属静岡翔洋高校）を経て、1993年にエスパルスに入団。1998年には日本代表の一員としてFIFAワールドカップに出場。2010年をもってエスパルスを退団し、以降はヴァンフォーレ甲府、AC長野パルセイロ、ブラウブリッツ秋田、アスルクラロ沼津で活躍。2024年限りで現役を引退した。現在は古巣のエスパルスでJリーグ気候アクションアンバサダーも務める。

地域とともに一歩ずつ前へ

大切なのは、行動を継続すること

現在、Jリーグ気候アクションアンバサダーとして活動をさせていただいています。その中で最も感じたことは、既に子どもたちはSDGsを強く意識しており、学校側でも学習が進んでいることです。

日常の中でSDGsに関する自分の行動を振り返ってみると、無意識のうちにくつ実践していることがありました。大事なことは、継続することです。自分にメリットがあることなら、取り入れる上でのハードルは高くないのではないのでしょうか。自分の例にあてはめると、たとえば燃費の良い車に乗ること、車を使う頻度を減らすことは、ガソリン代を下げることにつながりますし、電気を消す習慣をつければ電気代は下がりますよね。アクションを起こすための動機はなんでもいいと思うので、身近なところで簡単にできること、できる範囲の中でやれそうなことを継続する。そこに尽きるかなと思います。

サッカーを守るため、気候変動と向き合う

現役選手としてプレーしていた頃は、夏場の厳しさを肌身で実感していました。数年前まで、夏場であっても日中に公式戦が組まれていることがあり、選手はもちろんですが、サッカー観戦の体験そのものが脅かされる危機だと感じたことがあります。

ある時も、夏場のトレーニングマッチを昼間にやったあとで、暑いはずなのに鳥肌が立っていました。年齢面で耐久力が落ちたこともありますが、夏場の過酷な環境が身体的に大きな負担となっていることを改めて感じました。

気候変動による夏場の気温は、サッカーをプレーする全員にあてはまる問題で、子どもたちは人工芝でサッカーをする機会が増えましたが、夏場は体感温度が非常に高く、危険と呼べるレベルになってしまっています。改めて、自分たちのできる行動で気候変動を抑えられるならば、今一度考えなければならぬと思っています。

地域のシンボルとして、関心の輪を広げていく

SDGsや気候変動に興味を持っている人々は増えているとは思いますが、知る方法は年々広まっていると感じます。きっかけはなんでも構わないので、理解を深めていってほしいです。子どもの関心が強まることで、親世代が興味を持つきっかけにもなります。エスパルスは地域のシンボルであってほしいですし、僕個人としても、地域の皆様と一緒に進んでいきたい。影響力の大きさがあるからこそ、地域の皆様の目に触れる機会も増えると思っています。そうした方々の輪が広がっていけばいいなと思いますね。



S-PULSE

クラブ名	清水エスパルス
所属	日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）
ホームタウン	静岡県静岡市
社名	株式会社エスパルス
本社	〒424-0901 静岡県静岡市清水区三保 2695-1
現社名 営業開始年	1998年 <small>（株式会社エスラップ・コミュニケーションズより営業権の譲渡を受け、清水エスパルスの運営を目的に新会社として2月1日より営業を開始）</small>
基本理念	<p>「わかちあう夢と感動と誇り」</p> <ol style="list-style-type: none">エスパルスは、スポーツを愛する人々に支えられる地域のシンボルとして、夢を創造しつづけますエスパルスは、サッカーを通じて多くの人々と感動をわかちあい、地域スポーツ文化の発展に寄与しますエスパルスは、正々堂々と情熱をもって戦い、地域の誇りとなる最強のチームを目指します

清水エスパルス Impact Report 2025

発行日	2026年3月
発行人	山室 晋也
発行所	株式会社エスパルス 〒424-0901 静岡県静岡市清水区三保 2695-1 https://www.s-pulse.co.jp/
編集	星光社印刷株式会社
制作協力	KPMG コンサルティング株式会社

※本書の無断複写複製（コピー）は、特定の場合を除き、著作権の侵害となります。
※本 ImpactReport2025 は日本財団の助成を受けて作成しています。

S-PULSE



ミックス
紙 | 責任ある森林
管理を支えています
FSC® C018109